

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 福岡財務支局長

**【提出日】** 平成26年1月10日

**【四半期会計期間】** 第54期第3四半期(自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日)

**【会社名】** 株式会社プレナス

**【英訳名】** PLENUS Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 塩井辰男

**【本店の所在の場所】** 福岡市博多区上牟田1丁目19番21号

**【電話番号】** 092(452)3600(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 丸山俊也

**【最寄りの連絡場所】** 福岡市博多区上牟田1丁目19番21号

**【電話番号】** 092(452)3600(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 丸山俊也

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間		自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日	自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日
売上高	(百万円)	105,094	113,347	141,589
経常利益	(百万円)	4,725	6,353	7,153
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,769	3,721	2,906
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,762	3,738	2,917
純資産額	(百万円)	56,087	59,121	57,242
総資産額	(百万円)	78,988	84,655	81,429
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	46.30	97.39	76.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	46.21	97.13	75.85
自己資本比率	(%)	70.82	69.61	70.12

回次		第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	3.82	32.43

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、生産の増加や設備投資の持ち直しの動きが見られ、企業収益も改善が進む等、緩やかに回復してまいりました。

当外食産業におきましては、企業間の厳しい競争が継続しているものの、個人消費の持ち直し等もあり、事業環境に明るさが見えてまいりました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、引き続き新規出店を推進すると共に、店舗のQSC(品質、接客、清潔感)向上、商品力の強化、効果的な販売促進活動の展開に努めました。また、「ほっともっと事業」において、加盟店を増やしていく取り組みを進めました。さらに、新鮮で質の高いごはんを提供することへのこだわりの一環として、健康的でおいしい「金芽ごはん」を導入しました。

国内における店舗展開につきましては、新規出店を81店舗、退店を34店舗行った結果、店舗数は47店舗増加し、2,960店舗となりました。また、改装・移転につきましては、87店舗実施いたしました。

海外における事業展開につきましては、3月にオーストラリアにおいてPLENUS AusT PTY.LTD.(非連結子会社)を設立し、「やよい軒」の出店に向けた準備を進めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,133億47百万円(前年同期比7.9%増)、営業利益は57億16百万円(前年同期比28.9%増)、経常利益は63億53百万円(前年同期比34.4%増)、四半期純利益は37億21百万円(前年同期比110.4%増)となりました。売上高につきましては、新規出店による店舗数の増加が主な要因で、前年同期実績を上回りました。営業利益・経常利益につきましては、売上高の伸長に加え、仕入れコストの改善等により、前年同期実績を上回りました。なお、四半期純利益につきましては、前年同期に特別損失として訴訟損失引当金繰入額を計上したこともあり、前年同期実績を大きく上回りました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ほっともっと事業

「ほっともっと」創設5周年を記念した5月の「のり弁当」を対象とするキャンペーンや「ハンバーグ弁当」のリニューアルを実施する等、従来に引き続き定番商品の拡販に努めました。また、様々なシーンで気軽にご利用いただける「パーティプレート」や、ヘルシー志向に合わせた「十六穀米のバランス弁当」、タイ料理の「ガパオライス」等の新商品も適宜発売し、お客様の幅広いニーズへの対応を

図りました。店内調理による手づくりの特長を活かした商品開発に努め、競合店との差別化を図りました。

また、昨年導入した「ユニットFC制度」によるフランチャイズ展開の推進に注力し、新規オーナーの獲得及び既存オーナーの多店舗化に積極的に取り組んだ結果、加盟店は着実に増加しております。

さらに、爽やかで清潔感のある洗練された空間をコンセプトとしたデザインで、機能的で居心地のよい店内環境にこだわった新たなタイプの店舗の導入を随時進めております。

これらにより、既存店売上高は、前年同期比102.0%となりました。

店舗展開につきましては、新規出店を59店舗、退店を32店舗行った結果、店舗数は27店舗増加し、2,686店舗となりました。改装・移転につきましては、73店舗実施いたしました。

以上の結果、売上高は927億37百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は47億円(前年同期比19.7%増)となりました。

#### やよい軒事業

素材にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、「ひつまぶし定食」「すき焼き定食」等の郷土性や季節感を取り入れたメニューや、ボリューム感あるメニューをタイムリーに発売し、他店との差別化を図りました。また、お客様に快適にご利用いただけるよう、店舗のQSCの向上に努めると共に、ディスカウントキャンペーンを効果的に実施し、お客様の来店促進を図りました。

これらにより、既存店売上高は、前年同期比102.6%となりました。

なお、さらなる事業基盤の強化に向けてフランチャイズ展開を推進するため、専門部署を設置し、制度設計等の検討を進めております。

店舗展開につきましては、北陸エリアに初出店するなど新規出店を18店舗、退店を1店舗行った結果、店舗数は17店舗増加し、239店舗となりました。なお、改装を14店舗実施いたしました。

以上の結果、売上高は179億71百万円(前年同期比18.3%増)、営業利益は11億9百万円(前年同期比88.5%増)となりました。

#### しゃぶしゃぶダイニングMK事業

季節に合わせたメニューの発売や、カード会員向けに販売促進活動を行うと共に、店舗のQSCのさらなる向上に努め、お客様の来店促進を図りましたが、既存店売上高は、前年同期比97.1%にとどまりました。

店舗展開につきましては、新規出店を4店舗、退店を1店舗行った結果、店舗数は3店舗増加し、35店舗となりました。

以上の結果、売上高は26億38百万円(前年同期比17.5%増)、営業利益は29百万円(前年同期比23.9%減)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ32億26百万円増加し、846億55百万円となりました。内訳は、流動資産が19億6百万円増加したこと及び固定資産が13億20百万円増加したこととあります。流動資産の増加は、受取手形及び売掛金が1億99百万円増加したこと、商品及び製品が17億24百万円増加したことなどによるものです。また、固定資産の増加は、有形固定資産が5億97百万円増加したこと、投資その他の資産が7億77百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ13億48百万円増加し、255億34百万円となりました。内訳は、流動負債が11億56百万円増加したこと及び固定負債が1億91百万円増加したこととあります。流動負債の増

加は、支払手形及び買掛金が14億5百万円増加したこと、賞与引当金が1億97百万円減少したことなどによるものです。また、固定負債の増加は、資産除去債務が1億78百万円増加したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ18億78百万円増加し、591億21百万円となりました。これは、利益剰余金が四半期純利益により37億21百万円増加し、剰余金の配当により19億10百万円減少したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	92,568,000
計	92,568,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年1月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	44,392,680	44,392,680	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	44,392,680	44,392,680		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年9月1日～ 平成25年11月30日		44,392		3,461		3,881

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,174,300		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,178,300	381,783	同上
単元未満株式(注)	普通株式 40,080		同上
発行済株式総数	44,392,680		
総株主の議決権		381,783	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブレナス	福岡市博多区上牟田 1丁目19番21号	6,174,300		6,174,300	13.91
計		6,174,300		6,174,300	13.91

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 やよい軒営業・やよい軒FC開発・海外事業担当	取締役 やよい軒営業・海外事業担当	田淵 豪	平成25年9月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年3月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,351	21,432
受取手形及び売掛金	2,749	2,949
商品及び製品	4,735	6,460
原材料及び貯蔵品	73	54
その他	2,884	2,781
貸倒引当金	329	304
流動資産合計	31,465	33,372
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,554	24,191
その他(純額)	9,866	9,827
有形固定資産合計	33,420	34,018
無形固定資産	452	396
投資その他の資産		
その他	16,108	16,883
貸倒引当金	18	15
投資その他の資産合計	16,090	16,868
固定資産合計	49,963	51,283
資産合計	81,429	84,655
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,909	6,314
未払法人税等	1,632	928
賞与引当金	306	108
ポイント引当金	99	95
株主優待引当金	84	39
資産除去債務	29	7
その他	7,487	8,210
流動負債合計	14,550	15,706
固定負債		
訴訟損失引当金	1,339	1,339
資産除去債務	3,880	4,058
その他	4,416	4,429
固定負債合計	9,636	9,828
負債合計	24,186	25,534

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,922	4,916
利益剰余金	60,767	62,578
自己株式	12,050	12,035
株主資本合計	57,100	58,921
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5	11
その他の包括利益累計額合計	5	11
新株予約権	146	188
純資産合計	57,242	59,121
負債純資産合計	81,429	84,655

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	105,094	113,347
売上原価	49,566	52,123
売上総利益	55,527	61,224
販売費及び一般管理費	51,091	55,507
営業利益	4,436	5,716
営業外収益		
受取利息	51	40
受取配当金	2	2
為替差益	13	366
固定資産賃貸料	110	110
持分法による投資利益	7	14
その他	148	139
営業外収益合計	333	674
営業外費用		
固定資産賃貸費用	23	22
その他	20	16
営業外費用合計	43	38
経常利益	4,725	6,353
特別利益		
固定資産売却益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産処分損	104	190
減損損失	62	76
災害義援金等	20	-
訴訟損失引当金繰入額	1,339	-
その他	2	9
特別損失合計	1,529	276
税金等調整前四半期純利益	3,197	6,078
法人税等	1,428	2,357
少数株主損益調整前四半期純利益	1,769	3,721
四半期純利益	1,769	3,721

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,769	3,721
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	16
その他の包括利益合計	6	16
四半期包括利益	1,762	3,738
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,762	3,738
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年11月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年11月30日)
税金費用の計算 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
加盟店等 (当社指定業者からの仕入等の債務保証) 145百万円	加盟店等 (当社指定業者からの仕入等の債務保証) 162百万円
当社従業員 (銀行借入債務保証) 1百万円	当社従業員 (銀行借入債務保証) 1百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
減価償却費	3,266百万円	3,528百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年1月23日 取締役会	普通株式	955	25.00	平成24年2月29日	平成24年4月27日	利益剰余金
平成24年8月20日 取締役会	普通株式	955	25.00	平成24年8月31日	平成24年10月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年1月21日 取締役会	普通株式	955	25.00	平成25年2月28日	平成25年4月30日	利益剰余金
平成25年8月19日 取締役会	普通株式	955	25.00	平成25年8月31日	平成25年10月31日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ほっともつ と事業	やよい軒事 業	しゃぶしゃ ぶダイニン グMK事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高 (その他営業収入 を含む)	87,653	15,191	2,246	105,091	2	105,094		105,094
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高								
計	87,653	15,191	2,246	105,091	2	105,094		105,094
セグメント利益又は損失 ( )	3,927	588	39	4,555	2	4,553	117	4,436

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食に関する事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ほっともつ と事業	やよい軒事 業	しゃぶしゃ ぶダイニン グMK事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高 (その他営業収入 を含む)	92,737	17,971	2,638	113,347		113,347		113,347
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高								
計	92,737	17,971	2,638	113,347		113,347		113,347
セグメント利益	4,700	1,109	29	5,840		5,840	123	5,716

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	46円30銭	97円39銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,769	3,721
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,769	3,721
普通株式の期中平均株式数(千株)	38,210	38,215
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	46円21銭	97円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	78	101
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2 【その他】

中間配当

平成25年8月19日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 955,457,500円
- (ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25円00銭
- (ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・・・平成25年10月31日

(注) 平成25年8月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し支払いを行います。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年1月8日

株式会社プレナス  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	馬	場	正	宏	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松	嶋		敦	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	甲	斐	祐	二	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社プレナスの平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年9月1日から平成25年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社プレナス及び連結子会社の平成25年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。